



名古屋市立大学男女共同参画推進センター ニュースレター Vol.14

発行 名古屋市立大学男女共同参画推進センター 〒467-8601 愛知県名古屋瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL:052-853-8577/FAX:052-853-8588/E-MAIL:sankaku@sec.nagoya-cu.ac.jp
URL:http://www.nagoya-cu.ac.jp/sankaku/ 2015年6月

2015年、名古屋市立大学は開学65周年を迎えました。

INFORMATION お知らせ

研究力強化セミナーを開催します

参加対象者：本学に雇用されている女性研究者（特任教員、臨床研究医、臨床研究歯科医、研究員等を含み、学生・院生である者を除く）。応募状況によって二次募集を行います。問合せ先：男女共同参画推進センターまで

英語プレゼンテーションセミナー	英語論文執筆セミナー（理系）
<p>場所：桜山キャンパス西棟3階 男女共同参画推進センター 時間：11時30分～13時00分 日程：7/7、7/16、7/21、7/30、8/4、8/18、8/27 9/1、9/10、9/15、9/24、9/29 定員：20名 講師：タム・ヤング氏 使用テキスト：Oxford University Press 出版Successful Presentations 各自購入の上、持参してください。</p>	<p>場所：田辺通キャンパス 実習棟2階OSCE1 時間：11時30分～13時00分 日程：7/9、7/23、8/6、8/20、9/3、9/17 定員：10名 講師：タム・ヤング氏 持参物：自身の研究に関して書かれたもの（ページ数は問わない。スライド原稿、アブストラクトは不可）</p>



講師紹介 **タム・ヤング氏** ———
英国ウェールズ出身で、日本在住10年。千種区を拠点に社会人の英語力アップに尽力されています。企業でのビジネス英語講座、プレゼンテーション講座、研究者の論文指導などの経験が豊富です。

リーダーシッププログラム参加者募集

女性研究者が大学の研究・教育・組織運営に主体的に関わり意思決定を行うため、大学の上位職を目指すにあたり必要な情報・資質・スキルについてのリーダーシップ研修を、名古屋市立大学・名古屋大学・豊橋技術科学大学の3大学共同で行います。本プログラムは一年間のプログラムで、全4回の研修を行います。本年度の開催場所は名古屋大学です。参加希望の方は、7月31日までに男女共同参画推進センターまでお申し込みください。

<p>第1回 大学における男女共同参画の促進および女性研究者によるリーダーシップの意義</p> <p>日時：8月21日(金)13:30～15:30</p> <p>講師：名古屋大学第13代総長・濱口道成氏、名古屋大学副理事・東村博子氏</p>	<p>第2回 リーダーシップの自信を構築する(使用言語:英語)</p> <p>日時：9月1日(火)8:30～17:00</p> <p>講師：ルミナラーニング Elizabeth Handover氏、ACE Leader Ginger Griggs氏</p>
<p>第3回 パブリック・スピーキング(使用言語:英語)</p> <p>日時：2月～3月に2時間</p> <p>講師：サイマル・インターナショナル</p>	<p>第4回 大学執行部によるリーダーシップ研修および本プログラムの総括</p> <p>日時：3月8日(火)または10日(木)午後2時間</p> <p>講師：名古屋大学総長・松尾清一氏、名古屋大学男女共同参画室・三枝麻由美氏</p>

理系女性研究者の活躍促進シンポジウム

午前中は女子学生のポスター発表、午後にはシンポジウムを開催します。ふるってご参加ください。

開催日:8月22日(土) 場所:豊橋技術科学大学

総合情報センター・男女共同参画推進センター共同開催 女性研究者・若手研究者のための英語論文執筆支援セミナー

日時:7月15日(水)17:30～19:45
場所:桜山キャンパス医学部基礎教育棟 [第1部]5階 第3講義室 [第2部]3階 情報処理実習室
内容:[第1部]英語論文の書き方 理化学研究所創発物性科学研究センター 小野義正氏
[第2部]論文管理から執筆まで～Mendeleyによる論文管理と出版倫理～ エルゼビア・ジャパン株式会社 高石雅人氏

申込み・問合せ 総合情報センター川澄分館(853-8030)まで

教職員のお子さんのための夏休みサマースクール

夏休みの3日間、親である教職員が仕事に専念できるよう、お子さんをお預かりします。募集は7月6日から。詳細は学内通知、メルマガ、ウェブサイトでご案内します。お楽しみに!

日時:8月24日(月)～8月26日(水) 場所:山の畑キャンパス1号館

教員メンター制度をご利用ください

男女共同参画推進センターでは、赴任間もない新任教員に経験の豊かな先輩教員をご紹介し、新任教員が支援を受けることができる環境をつくってきました。今年度は、連携型事業の一環としてさらに展開させ、名古屋大学からも先輩(メンティ教員)の紹介を受けられることになりました。大学教員として成長するための心強いプログラムとして、教員メンター制度をご利用ください。お問い合わせは、男女共同参画推進センターまで。

2015年6月1日現在、本学の女性教員比率は22.9%です。

MESSAGE 男女共同参画について思うこと



男女共同参画推進センター長
2014年度副センター長
畠田理佳

いうアグネス・チャン氏はさまざまな感情をぶつけられる対象であったように思います。看護師という永久ライセンスを得て働き出したばかりの私にとっても、非常に興味深いできごとであったことを覚えています。

あれから25年以上、四半世紀以上が経ち、世代も一世代移りました。これだけの年月を経た今、どれだけ状況が変わったのでしょうか。「結婚して子ども産んで、さらに仕事までしている」のは誰にとっても普通のことになっているのでしょうか。答えは「No」だと思います。四半世紀の間には関連する法律が整備され、今日では職場に籍を置きながら仕事を一時期休むことができるようになりました。これにより、かつてのように「子どもを持つことを諦める」か「仕事を辞めて子育てに専念する」かの二者択一ではなく、「子どもも仕事も」が現実的に可能になったのは隔世の感があります。

しかし、研究職に関しては業績が評価として反映されるため、今でも結局は男性並みに働く女性しか生き残れない状況は変わらないのではないかと思います。週末や夜間の業務や宿泊を伴う出張もある中、周囲をみても家庭を持ち育児をしている女性で仕事を続けている人は、家族の協力が得られている人にほぼ限定されています。夫や両親の協力なく、本人が一人で何もかもしているという人は、ほとんどいないと思われます。それほど家庭のことに時間や体力を割く必要がない人向けの職場環境であるということなのです。

近年では育児に加えて介護という課題が出てくるようになりました。家庭のことを気にしつつも、誰もが好きな仕事を続けられるような職場にできたら、と思っています。

畠田理佳 看護学部准教授
2009年名古屋市立大学看護学部に入職。現在は急性・重症患者、周手術期の看護に関する教育と研究を行っている。プライベートでは4人の子どもを育て、専業主婦、ワーキングマザーを体験。2013年から女性研究者支援室室員・男女共同参画推進委員を務め、2014年からは男女共同参画推進センター員として名市大の男女共同参画に関わっている。

研究職は今でも男性並みに働く女性しか生き残れない状況ではないか——ランチミーティングを通じて出会う女性研究者から同じような声を多く聞きます。研究者が、そして名市大にかかわるすべての人が、ワーク・ライフ・バランスを実現するには何が必要でしょうか。男女共同参画推進センターでは、教職員・学生のみなさんのニーズから出発して取組を進めてきました。ご意見やお困りのことがありましたらぜひお知らせください。

今後のニュースレターではセンター員のメッセージを掲載していきます。ご期待ください。

計画期間: 2015年4月1日～2018年3月31日

名古屋市立大学では、男女共同参画社会基本法および男女平等参画推進なごや条例の趣旨に則り、2009年から男女共同参画推進の行動計画を定めています。

第3次行動計画では、ジェンダーバランスの改善とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組みます。

教育における男女共同参画

行動計画

性別にかかわらず充実した教育を受けることができる環境づくりを進め、同時に社会において男女共同参画の担い手となる人材を育成する。

特に女子学生に対し、大学院進学や研究者になることの魅力を広める。

男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関する教養教育の充実を図る

男女共同参画を推進するための教員研修を行う

研究における男女共同参画

行動計画

性別にかかわらず公平にかつ積極的に誰もが研究活動を行える環境づくりを進め、同時に男女共同参画社会を形成するための研究活動を推進する。

ライフイベントと研究の両立を支援する。

女性研究者の上位職への積極的登用や研究力向上に向けた取組を行う。

女性研究者のネットワーク形成を促進する。

男女共同参画の推進につながる研究活動の表彰を行う。

雇用における男女共同参画

行動計画

性別にかかわらず誰もが積極的に力を発揮でき、ワーク・ライフ・バランスを実現できる職場環境をつくる。

各部署で課題と目標を設定し、ジェンダーバランスを考慮した教員の採用に努める。

ワーク・ライフ・バランス相談室の相談内容や他大学・機関の例をもとに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた提言を行う。

短期学童事業を実施し、教職員の就業と家庭生活の両立を支援する。

各部署で、ワーク・ライフ・バランスの実現を妨げる働き方を是正する。

大学運営全般における男女共同参画

行動計画

教育・研究・雇用の全ての面において、ハラスメントの予防対策と大学外部との連携による取組を進める。

性別にかかわらず誰もが充実した教育を受け、積極的に研究や仕事に力を発揮できる環境をめざし、ハラスメントの予防対策を行う。

行政、地域、企業と連携し、男女共同参画の取組を進める。



センター長として少しでも現場の状況を知りたいという思いで、この3～4月にかけて現場を支えている女性たちの声を聞いてみました。それに先立って、各部署の長の方々にもヒアリングを行いました。これら2つの調査から生まれたのが、第3期の行動計画です。ジェンダーバランスとワーク・ライフ・バランスという2つの目標を掲げています。この大きなテーマを教育、研修、研究そして雇用の分野において考えつつ、できるだけ行動したい、というのが年度初めの気持ちです。名古屋市立大学のスタッフのみならず、実質的なご参加をお願いします。

男女共同参画推進センター センター長 井上 泰夫

男女共同参画セミナー 現代の若い世代の性 6月4日



自分の性についてあなたはきちんと知っていますか？正確な知識を得て、自分の性について自己決定できるようになってほしい。そんな思いから、丹羽咲江氏（咲江レディースクリニック院長）を講師に招き、男女共同参画セミナー「現代の若い世代の性」を開催しました。セミナーには、教養教育科目「地域社会における男女共同参画をめぐって」受講生を中心に約30名が参加しました。

講師の丹羽先生は名古屋市立大学医学部の出身。クリニックでの診療を行う一方、多くの学校で性教育の講演をされています。当日は、後輩である名古屋市立大学の学生たちに向けて、性に関するさまざまな話題をわかりやすく説明してくださいました。お話の中では、性感染症の自覚症状のなさや将来引き起こす可能性のある病気のこと、避妊に関する情報、ダイエットの身体への影響、ピルの有効な使い方など、学生が新たに得られる情報がたくさんありました。またそれらの話を通して、正しい知識をもち自分の身体を自分で守ることの大切さや、相手を尊重し理解し合いながら対等な関係を築いていくことの大切さを学ぶことができました。



新スタッフ岩瀬も参加しました

本日の講義は、たくさんのスライドをまじえながら、テンポよくお話いただき大変わかりやすかったです。現代の若い世代の性について、正しく確かな情報、知識の大切さを痛感しました。今後ぜひ機会があれば、もっと多くの方々にも聞いていただきたいと思える内容でした。

女性研究者ランチミーティング

滝子キャンパス 4月16日



薬学部、人文社会学部、経済学部等さまざまな所属から、女性研究者・女子学生7名が参加し、自己紹介を兼ねて近況を語り合いました。話題は、毎日の食事やお弁当作りの時間配分や苦労話、家庭での子どもとの「LINE」の関わり方など。参加者それぞれ研究関心は異なりますが、互いに女性研究者として共感できることも多く、日々の暮らしの中、お互いに提案できるような情報交換もあり、和やかで楽しい時間を過ごす会となりました。

桜山キャンパス 4月23日



医学部、看護学部より、初参加者を含め、8名の参加がありました。自己紹介のあとは、小学生の子を持つ親の子育ての話題に。大学内での学童保育の必要性や、子どもの成長に合わせた子育て支援の体制などを話し合いました。初参加の方からは、「ランチミーティングがいろいろな情報交換ができる場所とわかった。今後も積極的に参加して交流を深め、自分の生活に役立てたい」と感想をいただきました。

さくらんぼ保育所だより

過去から現在、そして未来へ

年度が変わる前日、旧病院内保育所時代も含めて、卒園児ファミリーの皆さんの「小学生になったよ」「中学生になったよ」という嬉しい訪問が重なりました。さくらんぼ保育所は6年目に入ったところですが、それ以前の子どもたちや保護者、関係者の思いと生活が重なって今があることを、改めて感じています。4月に入ってからも、昨年度の卒園児ファミリーの皆さんが遊びに来てくれています。嬉しく思うとともに、卒園児が何かの折に気軽に立ち寄れる場所があることの意味も、また感じるものです。

